

皆様の海外展開の取組をサポートします！

■相談窓口一覧

機関名	電話番号	メールアドレス
JICA沖縄(市民参加協力課)	098-876-6000	oictpp@jica.go.jp
日本の政府開発援助(ODA)、開発途上国への国際協力		
JETRO沖縄	098-859-7002	OKI@jetro.go.jp
投資の促進、農林水産物・食品の輸出や中堅・中小企業等の海外展開支援		
国土交通省 (建設・不動産の海外展開支援)	03-5253-8280	hqt-kokusai01@gxb.mlit.go.jp
JASMOCC(中堅・中小建設業海外展開推進協議会)の運営、 海外進出に必要な情報共有等の各種支援を実施		
INPIT知財総合支援窓口	0570-082100	-
企業における知的財産活用を支援		

■沖縄県海外事務所・関係機関一覧

海外事務所・関係機関	電話番号
北京事務所	010-86-10-6466-8679
上海事務所	010-86-21-6351-0231/2962
香港事務所	010-852-2968-1006
台北事務所	010-886-2-2521-0376
シンガポール事務所	010-65-6694-6408
ソウル事務所	010-82-2-318-6330
沖縄県産業振興公社 産業振興部 海外・ビジネス支援課	098-859-6238

■本ガイドブックに関する問い合わせ先

沖縄県 土木総務課 企画班

TEL:098-866-2384 FAX:098-566-2399

さあ、はじめよう！  
新しい成長戦略・経営戦略!!

# 沖縄発・建設産業のための 海外展開ガイドブック



# 目次

1章	海外展開が沖縄の建設産業の未来を拓く! ..... 03-04 海外展開への期待
2章	沖縄の自然や気候に育まれた建設技術 ..... 05-06 沖縄の建設技術はすごい
3章	沖縄の「強み」と世界のインフラニーズ ..... 07-14 アジアに近い!!沖縄の地理的優位性 島しょ地域の課題解決 世界に広がるウチナーンチュのネットワーク!! 世界のインフラ需要と沖縄の役割
4章	海外展開のススメ ..... 15-24 まず知っておこう!海外展開の取組あれこれ 海外展開ははじめの一歩~まずは行動しよう!【準備編】 海外展開ははじめの一歩~いざ!現地へ!【現地調査編】 海外展開ははじめの一歩~本格的な海外展開の前に 本格的な海外展開に向けて
5章	県内建設産業の現状・課題と沖縄県の取組 ..... 25-26

## はじめに

沖縄の建設産業は、これまで官民の様々な建設投資により比較的良好な受注環境にありました。今後、少子高齢化の進行、福祉等のインフラ投資以外の自治体の財政負担増、競争の激化等、産業界を取り巻く環境は将来的に見通しが不透明な部分もあります。

建設産業の海外展開の取組は、建設産業が抱える課題を解決する唯一の手段ではありませんが、県内事業が順調なうちに、海外展開の取組に挑戦することで、様々な知見やビジネスチャンスの獲得につながる可能性もあります。

また、沖縄の建設技術を必要としている、海外の様々なニーズも存在します。2030年の国際目標であるSDGsの達成に貢献することも建設産業には求められており、海外展開の取組は技術協力による国際貢献につながることも期待されます。

本ガイドブックでは、沖縄の建設産業において、海外展開の取組を身近なものに感じてもらえるよう、県内企業の実体験に基づく貴重な知見を踏まえつつ、沖縄の建設産業が抱える様々な課題の解決に向けて、海外展開の取組を考えることによる成長戦略としての可能性、世界のニーズや対象となる国、どのような技術が活用可能なのか、具体的にどのような活動を行えばよいのか等についてまとめました。

本ガイドブックが、沖縄の建設産業の海外展開の取組の一助となれば幸いです。



## — 1章 —

# 海外展開が沖縄の建設産業の未来を拓く！

## 海外展開への期待

### 海外展開はむずかしい？

海外展開についてどのような印象をお持ちでしょうか？海外展開は日本を代表する大手建設会社や建設コンサルタント等の取組で、沖縄の企業には夢のまた夢、自社には関係ないことだと思っていないですか？

沖縄の建設企業は、日本で要求される高水準の品質管理や安全管理に対応し工事等を実施してきております。また、これまで台風や赤土、塩害等に対する多くの知見やノウハウを蓄積してきました。これらの知見・ノウハウは、県内・国内だけではなく、気候や地理的に似た海外の地域でも需要があり、そのニーズは高まってきております。

簡単なことでは決してありませんが、県内企業にもできない取組ではありません。

実際に、自社の強みを活かし、海外展開に取り組んでいる県内企業も存在します。ぜひ、一度、会社の中で、海外展開のメリットや自社の強み等について考えてみてはいかがでしょうか？

### 企業の体験談

#### 海外展開に取り組む理由

我が国は少子高齢化社会の進行に伴い、今後は建設市場も縮小し、県内の建設業界も厳しい時代を迎えることは確実です。この状況を打破するには、県内企業も県内事業依存から海外市場に視野を向けることが必要であり、県内事業が順調な内に海外展開への取組みを始める必要があります。

世界のインフラ投資必要額は、民間機関の調査によれば、2013年から2030年の累計で約57兆ドル(約5,700兆円)にも及び、そこには巨大な市場が存在しているといわれています。県内の土木技術は世界の島しょ国・地域のインフラ整備に貢献できる可能性が大きく、県内業者が海外のインフラ市場に参入することができれば、大きな経済的メリットを得ることが期待できます。

(株)南西環境研究所



### 期待できるメリットとは？

まず、ここでは、海外展開に取り組む主なメリットについてご紹介いたします。

海外展開の取組は、企業の売上げ増加のような直接的なメリットだけではなく、自社の経営戦略の多様化や技術力の向上、人材の育成・確保、など間接的なメリットがあることも注目してほしいところです。

メリット  
1

#### 経営戦略の多様化

海外展開により、海外事業の受注による受注高(売上げ)の増加等が期待されます。

また、海外事業が事業内容に加わることで、経営の多様化につながり、中長期的に持続可能な経営戦略を描くことが期待されます。県内事業の落ち込みが生じても、事業の選択肢をいくつか持つことで、自社の強みやリソースの持続的な展開が可能となります。



メリット  
2

#### 技術力の向上

海外の工事等では、沖縄と前提状況が異なる場合が多く、手間はかかるものの、改めて自社の技術(知見・ノウハウ等)を見直し、現地ニーズに対応させる必要があります。

これらの取組を通して、自社技術の向上が期待されます。

メリット  
3

#### 人材の育成・確保

海外の情報収集や実際の市場調査、商談等の海外展開の取組を通して、社員の視野拡大やプロ意識の向上が図られたという企業の声が多く寄せられています。また、海外展開の取組は、大学生などへのアピール材料となり、新たな人材確保につながったという声もありました。

さらに、外国人材を受け入れて育成したことで、帰国後、現地法人設立の際のパートナーとして大いに活躍してくれたという事例も全国では少なくありません。



## — 2章 —

# 沖縄の自然や気候に育まれた建設技術

## 沖縄の建設技術はすごい

### 沖縄の自然や気候などの特徴とは？

沖縄県は、我が国唯一の島しょ県であり、年間を通して暖かく湿潤な亜熱帯海洋性気候に属し、サンゴ礁や美しい海浜、緑豊かな自然環境に囲まれた地域です。本県の建設企業等は、このような自然環境を保全する技術や島しょ性・亜熱帯性等の地域特性、台風、赤土、塩害等に対応した建設技術を数多く保有しています。

しかし、みなさん、これらの技術が特別なものとは思っていないようです。海外の島しょ地域などでは、このような環境保全等の技術が不足しており、日本、特に沖縄の保有する技術の活用が大きく期待されています。



### 学識者の声

#### 沖縄の建設関連技術を世界へ

沖縄の建設技術は、亜熱帯海洋性気候におかれた島しょ環境という構造物にとって大変過酷な環境と戦い続け、現在でも成長し続けています。

耐久性向上を目的とした材料管理/選定・材料開発、構造設計、また、正しい施工をしっかりと行い、たとえ失敗したとしても、そこから成功へ導く方法を学び、実行するという向上心など、当たり前のことを当たり前に行うという小さな努力が結果的に構造物の長寿命化に繋がっていきます。

このような認識、知識、考え方、技術を必要としている沖縄の環境に類似した諸外国は多くあります。琉球は、古より唐や大和など、近隣の国々と広く交流し、美しい文化を築き上げてきました(チャンプルー文化)。グローバル時代の今こそ旧琉球時代に倣い、世界を股にかけて建設分野のチャンプルー技術の構築、伝承等をさらに発展させていく時代です！

琉球大学 工学部 工学科 社会基盤デザインコース 富山 潤 教授



### 県内企業の海外展開事例は？

実際、沖縄県内で、自社が保有する技術やノウハウの活用に向けて取り組んでいる建設関連企業の事例があります。これらの企業が保有する技術等は、沖縄県内の課題に対して開発・改良されたものですが、沖縄と同様の課題を抱える海外の島しょ地域等においても、活用が期待されています。

#### ヤシ繊維を活用した濁水処理対策の展開 (株)南西環境研究所

県内の赤土対策において開発された資材を活用し、サモア国における環境保全の課題解決に向けJICA普及・実証事業を実施中。



#### リサイクル資材を用いた泥土改質材の展開 (株)リュウクス

バイオマス発電により発生する副産物を主材とした泥土改質材を開発。台湾における廃棄物有効活用に向け台湾企業と商談中。



#### 取組事例検索

JICAでは民間連携事業等の事例検索ができます。

[https://www.jica.go.jp/priv\\_partner/index.html](https://www.jica.go.jp/priv_partner/index.html)



### JICA研修生の声

#### 自国での活用が期待される技術等

- 長寿命な構造物の設計・建設技術
- 高潮の対策技術
- 斜面对策技術
- 土壌流出対策技術
- インフラ開発時の自然環境保全技術
- インフラの劣化診断や対策技術

JICA沖縄にはこれまで数多くの海外政府機関の職員が研修生として来日し、沖縄のインフラ整備などを学んでいます。



#### 自国と沖縄の類似性等

##### 2018年研修生: ミクロネシア連邦

立地条件や熱帯性気候であるところが、私の国に(ミクロネシア連邦)とても似ており、親しみを感じました。

##### 2021年研修生: フィリピン

沖縄とフィリピンは環太平洋火山帯に位置し、地震や台風などの災害に見舞われることが多い国です。JICA研修で学んだことは、フィリピンでも活用できると感じました。